



ひだまり

さくら千手園 佐倉市青菅1019 043-462-2008 木の宮学園 佐倉市青菅1051 043-463-1008

目次

散歩道	1
さくら千手園	2
木下大サーカス	2
ハビリテーション	2
(はばたき)	
千手園日記	3
木の宮学園	4
ファミリーサポート	4
(短時間レスパイト)	
プール外出	4
木の宮日記	5
サポート	
ボランティア紹介	6
アプローチ(防災)	7
情報フラッシュ	8



第12回 千手会夏まつり

散歩道

園庭に多数の模擬店、そこに集う700人の人々、すっかり定着した千手会夏まつりの点描。祭り気分を盛り上げる粋なハッピー姿の利用者とゆかた姿の踊り手の皆さん。受付には今年も顔の広い社協の副会長。おしゃれな中高年の方々はバザーの話で持ちっ切り。ゾロゾロ子連れのとくましいヤングママ集団に焼そば。子供たちは我先きへとゲームの列へ、気が急いでほおばっている利用者とおぶつかりごめんなさいと顔をあげた小学生。汗を流し呼び込みするボランティアや職員と利用者、妙に屋台が馴じんでいる。ちょっと緊張ぎみの勇翔太鼓の女の子たちにかき氷。盆おどりの輪の中に焼き鳥片手の利用者。バラエティに富んでいて準備が大変だったでしょうと労ってくれるPTAのお姉さんの手には金魚。炎天下飲まず食わずで走りまわる行事の担当者や交通整理の若者。ともあれ利用者の皆さんが一番いい笑顔。みんなみんなご苦労様。楽しい思い出を有難う。

さくら千手園

木下大サーカス

7月19日に利用者、職員で木下大サーカスを見学に行きました。皆さんとても楽しみにしていたようで、何日も前から「明日サーカス？」と聞いてくる利用者が多くいました。当日はさすがに皆さん準備も早く、順調に会場の幕張へ到着しました。会場に着いてからは、ジュースを買いに行ったり、トイレに行ったりと始まるまで落ち着かない様子でした。いよいよ幕開けです。拍手とともに空中ブランコやピエロのショーが始まり、真剣に見る人やお菓子を食べることに夢中人とそれぞれでした。ライオンや象が出てきた時には、皆さん喜んで声を上げており、特にS・Sさんは、最初から最後まで真剣に見て、ショー



をしているお兄さんやお姉さんに「ガンバレ」と声援を送っていました。園に戻ると「空で人が回ってた。」「危なかったよ。」など、おもしろい感想を聞くことができました。初めてサーカスを見て感



ハビリテーションはばたき

ハビリテーションとは、聞きなれない言葉だと思えます。これはリハビリと違い身体の機能回復を目的とするのではなく、現在の身体の機能維持・将来の老化防止を目的に取り組んでいます。「はばたき」の意味は、いつまでも現在の身体の機能を維持してほしいとの願いからついています。

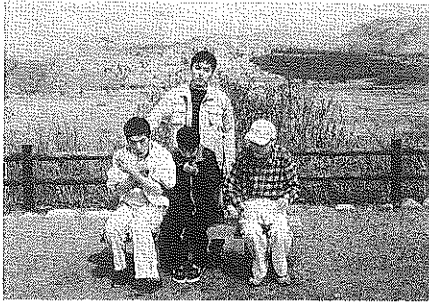
現在、6名の利用者の平均年齢は41.5歳です。年齢的に機能回復が困難で、ハンディもあるので現在の状態を維持していくためにプログラムを作成しています。プログラムの作成は、3ヶ月に一度、小川PT(理学療法士)が来園し、個々の利用者にあったストレッチ等を取り入れていきます。実施時間は、月・水・金曜日の午後1時20分〜3時まで実施しています。身体的な部分を援助していくので、プログラム中に嫌がることが見られますが、積極的に行う様子も見られ、楽しい雰囲気です。少しづつでも楽しい雰囲気を作っています。少しでも楽しい雰囲気を作っていくと音楽をかけたり、遊び



の中からヒントを得てプログラムに取り入れています。そうすることで、少しでも楽しいハビリテーションを行い、日常生活の一部となる日を願うとともに利用者との何気ない会話・動作で機能維持ができることも重要だと思えます。今後、身体の機能がどのように変化していくのか分かりません。先の見えない援助をしていくのとても難しいと感じる今日この頃ですが、これからも小川PTと共に利用者の機能維持に取り組みたいと思います。(島田)

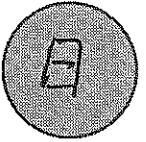
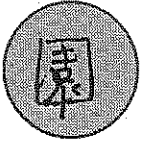
ハイキング

私達職員2名、利用者3名は2泊3日、信州の旅へ出掛けました。初日は八島湿原。車から降り立つと5月だというのに風が涼しく、上着を羽織る程でした。展望台から見渡すと、これから歩くコースが見えます。あんなに歩くのかと不安でしたが、いざ歩き始めると、先頭でニコニコしながら自分のペースで歩く人、途中立ち止まりながら自然を感じている人、皆んなのペースに合わせられるか心配だった人もそれぞれ気持ち良さそうに歩いています。1時間も歩くと汗もにじみ、後半はのんびりペースで景色を楽しみました。湿原はお花こそ咲いて



いませんでしたが雄大な山々が湿原の水面に映り、雲がゆっくりと流れていくのがわかります。約2時間のハイキングで、気持ちの良い汗を流せました。翌日からはあいにくの天気ドライブとなり車の中からでしたが、千葉ではとくに散ってしまった八重桜や、たんぽぽが咲いているのを見たりと、2泊3日で信州の自然を満喫することができました。

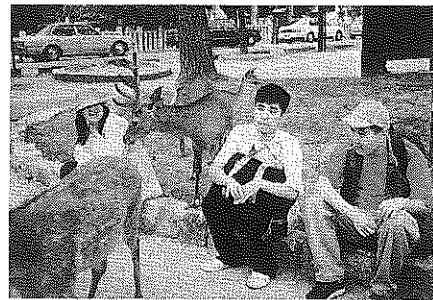
(久保田)



京都・奈良

6月8・9・10日と京都、奈良へ行って来ました。一日の半分以上、電車に揺られていましたが、皆、景色を見ながらおやつを食べたり、ガイドマップを見て行きたい場所を話し合いながら過ごしました。奈良に着いてからすぐに奈良公園に向かい、放し飼いにされている鹿に服を引っ張られてしまう方もいました。何とんでも大仏の大きさには圧倒されてしまい、目を真ん丸にして驚いている様子でした。その後、京都駅前にあるホテルへ向かい、大浴場がある事を知ると皆とても嬉しくなり、食事が終わるとすぐに入りに行き一日の疲れを癒していました。翌日は寺院等の名所を観光し、清水寺付近にある湯豆腐店で昼食をとり、普段は豆腐をあまり食べない人も「おいしい」と言って何度もおかわりをしていました。最終日はお土産を買いにお店をまわり、沢山の思い出と共に帰路に着きました。

(久保)



北海道

7月12日～15日、利用者9名・職員5名で行ってきました。初日は羽田～女満別へ。さすが北海道!!こちらより涼しく快適で車を借りて“いざ出発”。食欲旺盛な私達、美味しい物を食べようと昼食には珍しい海馬(トド)肉と鹿肉にチャレンジ。店に着くと店内には海馬漁に使う鉬が飾ってありすごい迫力でした。テーブルにはみんなが注文した鉄板焼きがすでに並んでおり、「これがトド?」と聞く人や黙々と食べる人とそれぞれ。味の方はと言うと色はクジラ肉のような色で食感は少し硬め、脂身はなく少しくせのある味でこれも人それぞれ

といった感じでした。「トドおいしかったよ。」と言う人、肉を残してしまう人といまいましたが珍味を食べたと言う事で皆納得しました。翌日も私達は美味しい物を求めて摩周湖～釧路へ。御飯を買い、好きな刺身をのせてもらえる和商市場。3日目はチーズフォンデュ、炭火焼屋をめぐるしました。旅も終わり、新千歳～羽田へ。外に出た時の暑さが楽しい4日間の終わりを告げていました。

(蜂谷)



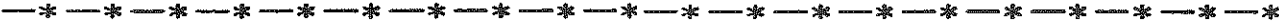
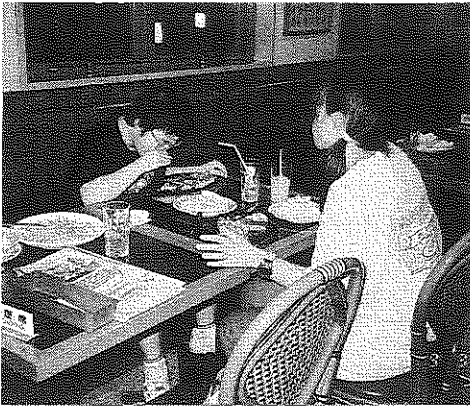
木の宮学園

ファミリーサポート (短時間レスパイト)

学園の利用時間は決まっています。しかし「用事でどうしても時間までに迎えに行けない」このような事はよくある事だと思います。また家族も「もう少し時間的余裕があれば」と思うのは当たり前のことです。少しでも利用者を支える家族の力になりたいと思い、3年前より短時間レスパイトサービスを始めました。早朝1時間・夕方3時間・送迎・オプションをつけています。本人もその時間を楽しめるようプールやカラオケなど何でもありで自宅まで送迎します。利用回数もだんだん増えてきているようです。地域生活支援とは利用者・家族が必要としているサービスを施設の都合に合わせるのではなく、24時間・365日利用者に提供していく事だと考えます。しかし、施設の力だけで全てできる事ではありません。全ての人に

必要なサービスが行き届くように、様々なサービスがネットワークでつながってくれば生活は守れます。レスパイトサービスは地域生活支援の1つの有効なサービスとして行政も認め始めているようです。各地での先駆的な実践を見守りながら、木の宮学園もより良いサービスを目指して行きたいと思っております。

(渋谷)



透き通るような青空、照りつける太陽、まさにプールには絶好の天気。7月30日に外出が行われました。

2年ぶりとなるプール外出のうえ、会場も幕張総合高等学校に始めて行くということで、何日も前から「プール外出楽しみだね」「どこに行くの」など様々な質問があり、みなさんとても楽しみにしているようでした。

昼食はプレナ幕張にて好きなお店を選びお腹いっぱい食べ、満足そうな表情でプールへ移動。屋根が開閉する全天候型のプールを見て、「広いね」「きれいだね」など喜びの声が上がっていました。プールのなかに入ると歩く人、浮き輪でのんびり過ごす人、オリンピック選手顔負けの泳ぎを披露する人、あまりの気持ち良さに声を上げて喜んでいる人などそれぞれ楽しんでいました。帰りの車中プールの感想を聞くと「広くて楽しかった」と声が聞けて、嬉しく思いました。

幕張総合高等学校関係者の皆様
の御協力に感謝いたします。

(森)

プー ル 外 出



プールがいつ
とてもよかったです
また行きたいです。

(M・N)

プール外出おもしろ
かった。

(J・H)

プール楽しかった
です。

(K・T)

また、まくはりの
プールに行きたい
です。

(M・T)

木の宮日記

伊香保温泉

今回のグループ旅行では、情緒溢れる坂の町「伊香保」に行ってきました。現地に着き名物の水沢うどんをお腹一杯食べた後はおもちゃと人形博物館へ。

テディベアから昔懐かしい郷土人形まで大集合。皆目を輝かせて、様々な人形に見入っていました。次にワゴン車は景風流の宿「かうや」へ。景風流と書いて「ケープ」と読むそうでその名の通りケープルカーで登っていくのです。その高さで急な斜面にはドキドキ。無事入口に着くと、皆ホッと胸を撫で下ろしていました。

2日目は渋川スカイランドパークへ。平日という事もあってか、皆並ぶ事もなく、ジェットコースターや観覧車に乗って目一杯楽しんでいました。帰りのワゴン車のなかでは「来年も来たい」との話で盛り上がりつつも楽しい旅行となりました。

(小石)

高尾山

6月14日天気晴れ、メンバー8名の表情も快晴で、勝田台に集合。2時間あまりの電車の旅を各々がのんびりと楽しんで目的地へ。いざスタート！かなりの坂道を各々のペースで休みを取りながら、約一時間を歩き薬王院入口に到着。そこで昼食となり、皆一息。カレーライス・そば・牛丼と、汗をかき歩いた後の食事は皆の顔が満足そう。40分の休憩後、薬王院を参拝し頂上へ。周りの景色を楽しんで下山し、ファミリーコースの沢へ入る。ごつごつとした細い道を下ったり登ったりしながら、途中「コワイヨ」と言うが、声をかけると「大丈夫です」と歩き通す。また、黙々と歩く人、足がもつれながらも皆と一緒に頑張った人と、少々きついコースとなりましたが、大木の茂る中の一味違う空気を味わい、森林浴を満喫できました。駅に着いた



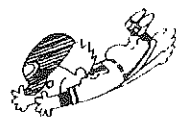
時の皆の顔が充足感で輝いて見え、「また来年も来ようね」と約束し電車の人となる。ぜひいたくな一日を実感！ (中野)

試合終了まで楽しむ。みんな満足気な顔でホテルにもどってお風呂に入り、明日の遊びにそなえる。2日目は西武遊園地へ。ホテルからは目と鼻の先ゆっくりと歩いて移動する。ジェットコースターに挑戦し、降りると足はブルブル震え、しばらく足が前にでない。「もうぜったい乗らない」「こわかった」「また乗ろうね」との感想。色々経験できた二日間でした。

(久島)



西武ドーム 遊園地



前日から降っていた雨も上がり、所沢へ向けて出発。予定通り球場に到着する。試合時間にはだいぶ間があり練習場のほうへと行ってみると、今一番人気の松坂投手が目の前でCMの撮影どりをやっていた。皆少々興奮気味。しかし当日の試合には出ないとのこと。少し残念だった。ドームに入ると試合開始前に西部マスコットと記念写真を撮ったり、夕食の弁当を食べたりして始まるのを待つ。試合中は、双眼鏡で一生涯懸命試合を見ている人、ホームランボールを拾いに行く人それぞれに

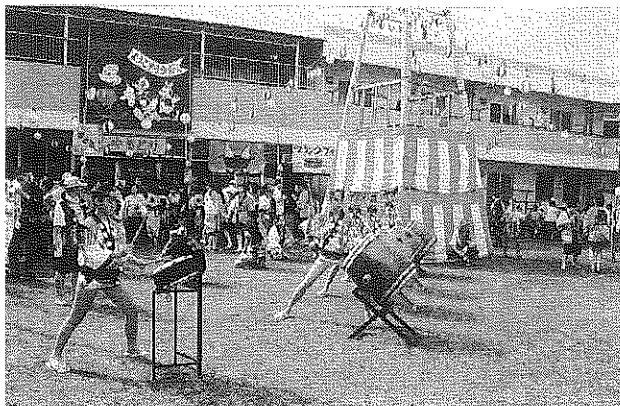


ボランティア紹介

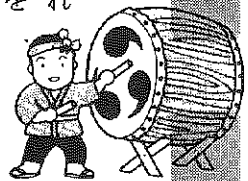
大江戸助六流佐倉勇翔太鼓

増田 政文

毎年、夏まつりにお声を掛けて頂き有り難うございます。初めて参加させて頂いた時は、「何が出来る？」と不安と戸惑いがありました。参加して一気に解消する程驚かされることしばしば。それは、私達も見習わなくてはならない程の抜群のリズム感の良さ。太鼓の響きに無条件で反応し、全身で楽しんでる姿、笑顔。「あの笑顔に会える」ことの喜びと、「太鼓をやっているよかった」と実感し、感謝の気持ち一杯です。また、今年は私達にとって記念すべき夏まつりでもありました。木の宮学園J・Hさん親子の初デビューです。春の合宿で挫折することなく頑張り抜き、猛暑の中の稽古に休む事なく真剣



に参加していた姿が思い出されます。人種や国や文化や言葉を越えて共通の感覚で捉えられる太鼓の響き。そして、人間、牛馬犬猫等全ての動物を含めて心臓「太鼓」を一つずつ持っており、心臓の「鼓動」は正に太鼓のリズムである。これからも、人類生ある限り永劫に果てる事なき音として、民平等に幸福「感動」を共に楽しんでいきたいと思えます。



上志津芸能連盟

渡辺 誠恵

夏祭りのボランティア活動に参加して4年目となりました。利用者との触れ合いに最初は戸惑いを感じましたが、最近では戸惑うことなく触れ合うことができるようになり、年間行事の一つとして計画しています。「こんにちは」との挨拶に次々と握手する皆さんに「今年もよろしくね。元気だった」と互いに声をかけ合い親愛を深めました。7月29日、初日の練習です。今年、佐倉音頭・だんご3兄弟・アラレちゃん音頭・炭坑節・河内おとこ節と5曲の練習でした。音楽が流れてくるにつれ、一生懸命踊る姿に私達も熱が入りました。久しぶりも手伝い興奮している人、太鼓を打つ人、転んでしまうほど足を高く上げる人、大声でリズムに合わせる人、ピョンピョンと跳ねている人など一人一人に心配りをしている職員の方々には頭が下がりました。8月5・6日と練習を重ね7日は本番です。本番には、家族がお迎えのよう



親子で踊る方や踊りはそっちのけで屋台に夢中の方など、それぞれ皆さん楽しそうでした。年毎に、ボランティア活動に参加する人数も増え、今までこのような施設がある事すら知らない人も参加するようになり、益々地域と、利用者との交流が深まり、これも偏に園の良い受入れ体制に感謝致します。これからもバザー、夏祭り等に私達の出来る範囲で協力して行きたいと思えます。

Approach

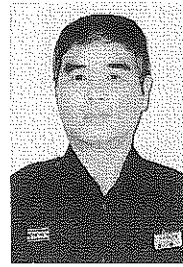
アプローチ=接近する・研究方法

防 災

社会福祉施設における防災

志津消防署長

吉川 儀一



社会福祉施設において火災が発生した場合、自力で非難することが困難とされる方が入所していることもあり、大きな人的被害を出す可能性が存在するとされています。特に職員が手薄となる夜間、休日等に発生した場合に危険性が高く、過去にも多くの尊い人命が奪われた火災事例が発生しています。例えば、昭和62年6月東京都東村山市の老人ホームでの火災では17名もの死者が発生しています。ですから社会福祉施設においては、まず火災を出さないということが最大の目標

でありますが、もし何らかの原因で火災が発生してしまった場合、その被害を最小限に食い止めるのは職員の初期対応にかかっていると言っても過言ではありません。それでは実際に火災が発生してしまった場合、職員が一体となつてとるべき行動は概ね次のとおりです。

- ① 出火場所の確認
自動火災報知設備の受信機又は副受信機により出火場所を確認する。
- ② 現場の確認
出火場所に到って、現場の状況を確認する。
- ③ 消防機関への通報
電話又は非常通報装置により火災である旨を消防機関へ通報すること。
- ④ 初期消火
消火器又は屋内消火栓により初期消火を行うこと。
- ⑤ 区画の形成
ア、出火区画、隣接区画等の



夜間訓練(さくら千手園にて)

- 防火区画の形成
防火戸を閉鎖して、出火区画、隣接区画等の防火区画を形成すること。
- イ、室の区画の形成
入所者等が就寝に使用する室、リネン室等の廊下に面する閉口部の戸を閉鎖して、室の区画を形成すること。
- ⑥ 情報の伝達及び避難等
火災を確認後、入所者等及び職員に火災である旨及び避難すべき旨を伝達、指示するとともに、入所者等をより安全な場所へ順次避難させること。

- ⑦ 消防隊への情報提供
消防隊の活動が効率的に行われるよう、消防隊に対し情報の提供を行うこと。
 - ⑧ 近隣事業所等の応援
近隣事業所等の応援がある場合は、前記対応事項の一部について応援を受けることができる。
- 以上、火災発生時における職員のとるべき対応事項を示したものであるが、実施にあたっては個々の社会福祉施設の消防用設備の設置状況、宿直室と出火場所の位置関係、バルコニーの有無、搬送手段の状況、防火区画の形成等を勘案して、できるだけ効果的に消火、通報及び避難の初期対応を職員全員が行えるよう日頃の訓練で培っておいて頂きたいと思えます。
- さくら千手園においては、このような点を踏まえ、充実した防火管理体制が確保されており、定期防災訓練以外に毎年9月1日の「防災の日」には各関係機関等が参加し昼夜にわたっての防災訓練が実施されております。今後訓練に訓練を重ね、さらなる防火意識の高揚を希望いたします。

行事予定

10月

- 4～7日 ニード別外出：十和田湖と奥入瀬 ⊕
- 7～8日 グループ旅行：房総 ⊕
- 22日 手をつなぐスポーツのつどい(天台) ⊕
- 23日 第4回学園祭 ⊕
- 26～27日 ゆうあいピックソフトボール大会(成田大谷津球場)

11月

- 4～5日 グループ旅行：仙台 ⊕
- 8～11日 ニード別外出：グアム ⊕
- 10日 フライングディスク千葉県大会(青葉の森)

12月

- 6～9日 ニード別外出：シンガポール ⊕
- 26日 千手会年忘れ会
- 27～1/4日 ⊕・27～1/9日 ⊕ 冬休み

1月

- 15日 ⊕・22日 ⊕ 餅つき
- ⊕; 千手園 ⊕; 木の宮学園

ご寄付に感謝いたします

千手会夏まつりに

ご支援・ご参加
いただきました
皆様へ。

日本アムウェイ

株式会社様



保護者会バザーのお礼

今年も、思いの他暑い日が続きバザーにむけての保護者会の動きも最初は大変でした。その上世間では、不景気という事ではなかなか集荷出来ず、挫折そうになる気持ちを利用者の顔を一人一人想い浮かべながら頑張りました。でも、

それにも増して地域の方々の暖かい「いつも楽しみにしているよ。」「頑張っているね。」などの応援に励まして頂き、例年より多い三三六、三四〇円の収益がありました。加齢対策基金として積立て、大切に使用して頂きます。有難うございました。

(さくら千手園保護者会)

わたしたちの作品

いちおし作品の紹介

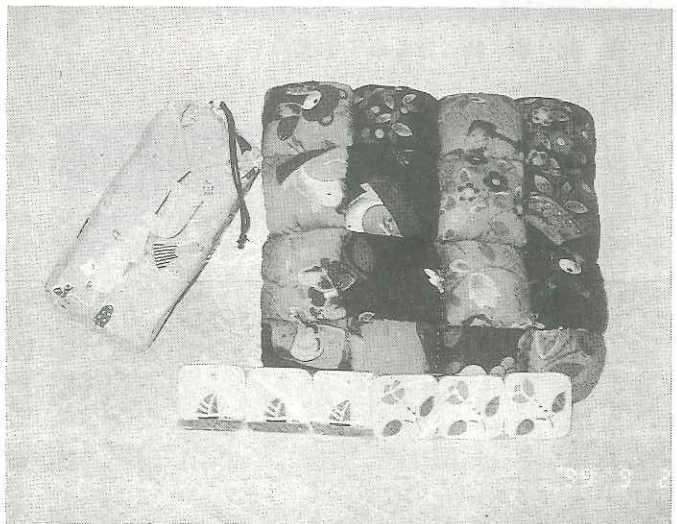
それでは私達、縫製班を紹介したいと思います。

縫製班のモットーは、「明るく楽しいのんびりと」を基本にして作業を進めています。このような感

じなので時には、おしゃべりが多くなり作品完成のペースが遅れることがあります。ですが、みんなそれぞれの工程に工夫をこらして頑張っています。

作業内容は、パフクッション・ティッシュケース・コースターの3つが中心です。利用者の方々には、やりたい作業を自分で選び参加してもらっています。まずパフクッションの工程ですが、8cm×8cmの布を組み合わせて全部で16枚作り、裏布を付けてふかふかに綿詰めをして仕上げます。ティッシュケースは、箱の型どりに布を縫い、下げられるように紐を通したら出来上がりです。2つとも利用者の愛情いっぱい作品となっています。

もうひとつのコースター作りは、2年前から始めています。木を良くみがいたコースターにトルペイントをする作業で、かなり細かい工程の為、職員と利用者が一對一となって仕上げた自信作です。皆さんぜひ一度お使いになってみてはいかがでしょうか。(吉村)



編集後記

毎日暑い暑いとタオルが必需品だった今年の夏。…でもいつの間にか夕方には虫の音が聞こえたり、仕事帰りの車の中からふと見上げた月に思わず「きれい」とつぶやいていた私。季節は着々と移り変わっていたのですね。雑誌を開くと、今年の秋冬はオレンジ・赤・カーキ色の大流行りとか。私達の千手会広報誌では、どんなカラーをだせるでしょうか？皆さん応援して下さいね。(鈴木)